

平成28年度 学校自己評価【学校運営・教育内容に関するもの】

平成30年6月1日
ルネサンス大阪高等学校
学校評価・改善委員会

教育理念	学ぶ楽しさを知り、自ら学ぶ力と豊かな人間性を身につける
目標 (テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を再生して高校を卒業 学ぶ楽しさを体験する科学の授業で、生涯学び人に 目標めよ！自分力、早期にやりたいことにチャレンジ 目標の実現をサポートする教育システムの提供

※評価基準・・・A:達成できている B:どちらかといえは達成できている C:どちらかと偏見は不十分である D:不十分である

分類	評価の視点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価理由	改善方針
学校運営	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っており、その構成・実施の考え方について、教職員間で共有がされている。	A	学習指導要領に則した教育課程を編成し、単位認定に必要な道徳指導時間を年種計画により十分に確保している。教育課程実施の考え方については教員・教務主任を中心に各教員へ理解度を高め、共有を図っている。	道徳指導については必ずしも授業のみでは実施できない内容（読書活動や実践、体験）の一層の充実を図っていく。また基礎学力が不足している生徒への対応として月に1回レポート学習会を開催し、学力の不足を補完していく。
		教育目標	生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じた支援・指導を行っている。	A		
	教職員連携	組織運営	本部及び本校の役割分担や主任体制などが適切に機能するなど、学校の運営・責任体制が整備されている。	A	主任室を中心とする運営体制の整備を行った。教員と事務は同一スペースにて勤務を行い、職員会議も出席するなど密に連携している。全体的な運営体制の充実により本校内に本社員としての意識が醸成され、本職意識を持つことになり、より積極的な運営体制の確立を目指しやすくなった。また、姉妹校を含めた全生での教職員研修を実施し、より連携のとれた運営ができるようになっていく。	株式会社という特性を生かし、情報の変化に即応する体制を整えていくとともに、安定した組織運営の確立を目指す。
		教員・教務連携状況	教員間の相互理解がなされ、共有及び連携関係が構築され、教育活動が行われている。	A		
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解及び連携がとれている。	A		
		会議の有効性	職員会議・スクーリング会議などの共通目標・共通理解のもと、有効かつ効果的に機能している。	A		
	財務関係	財務に関する意識	経費削減と財務状況について理解している。	B	全体的な運営体制の充実により本校に代表取締役及び学校運営責任者が前年度より異なるとなった。このことにより教職員に対する財務状況等の説明、経費状況に対する教職員の意識の高まりを見た。また教職員研修でも財務の財務状況を説明する時間を設定し、より経営への理解を深めている。	生徒課長に限らず、より一層の経営意識の醸成を図る。
		財務状況の把握	予算・決算の収支状況に関して理解している。	A		
	危機管理	役割分担	事故・事件・災害などに対する連絡及び役割分担が明確になっている。	A	事故災害等に関する危機管理は各自の担当にて規定されている。また本校はプライバシーマークを取得しており個人情報管理についての研修も定期的に行っている。地域公共機関との連携は、大阪市危機管理課の方と打ち合わせを毎月実施済み。	引き続き消防、消防機関と連携をとり防災教育、研修の充実を図る。
		安全管理	学校の安全は確保管理及び活動が実施されている。	A		
危機管理対応状況		危機管理マニュアルに基づき、市役所、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれている。	B			
渉外	生徒募集	学校説明会の開催や学校案内パンフレットなど、効果的な広報に工夫・充実させる。	A	今年度は目標300名に対して入学者722名。中学校からの入学が増えたことで近所地区での認知向上を懸望されるようになった。	市内は言うに及ばず、奈良・兵庫等の宇治高等学校へも学校説明を行い、認知度の向上を図っていく。また本校は従前通りの進捗が多いため、学費等についてより一層のケアを行う。	
	各教育機関との連携	市町村教育機関への訪問や漢字学習協議会加盟校と連携した広域活動をしていく。	B	引き続き地域教育機関への告知、認知がまだ低いと認識しているため、こまめな活動で認知向上を図る。		
教育内容・支援	基礎指導・指導体制	スクーリング参加状況	年種スクーリング日種別に基いた参加促進を行う。	A	各担任が電話・LINEなど様々な方法で丁寧にスクーリング参加を促し、87%の生徒が規定のスクーリングを終了することができた。	年度途中の転入生が中国四州地方を中心に増加しているため、近隣の生徒には早期のスクーリング終了を促すようきめ細やかな指導を行う必要がある。
		スクーリング内容（面接指導）	各科目担当者が授業工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲が高められる授業を展開している。	A	すべての授業にモニターを設置を行い、パワーポイントや動画などの利用で生徒の理解を深める体制が整った。	生徒の満足度を高めるべく各教科で指導内容のさらなる精選を図る。
		レポート内容・印刷	レポートが学習成果（興味・意欲・関心）につながる内容になっている。また、インターネットを活用した印刷結果の通知がないよう、計画的な実施を行っている。	A	動画について、NHK高校講座のものを活用して、生徒に関心をもたせるようにした。	単位認定に支障がないよう教務部による各教科への印刷の働きかけを定期的に行う。また動画の内容の改善も継続して行う。
	情報発信	ネット関連の発信活用	本校独自でネット開設している「マイページ（連絡）」にて、タイムリーな情報提供を行っている。	A	マイページに情報を提供しているが、生徒が定期的にチェックする習慣を身につけさせる必要がある。	担任はマイページの情報を生徒にダイレクトに伝達することも必要である。
		個人に対する効果的な情報提供	本校独自でネット開設している「マイページ（連絡）」にて、生徒個々の学習進捗が確認できる。	A	各担任はマイページで進捗を確認し、レポート提出促進・スクーリング参加促進に活用した。	教員専用マイページをさらに活用し、保護者との連携強化を行う。
	情報教育	情報能力向上	各種活用能力の向上を向上させる。	B	担任指導や情報の授業で知識向上に取り組んでいるが向上の余地はある。	教員の情報能力・知識の向上に努める。
情報モラル指導		情報発信・公開に伴う責任など情報モラルの教育に取り組む。	A	情報科を中心に情報モラル教育の推進に取り組んでいる。	教員の情報能力・知識の向上に努め、さまざまな場面で情報モラル教育を行う。	
生涯指導		指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度（進路卒業・進路決定など）を高める。	A	卒業率は89%とほぼ9割であった。	生涯指導部を中心に進路決定率のさらなる向上を目指す取り組みが求められる。
生徒・進路・保護者連携	生徒指導	生活指導について	学校組織に基づき、生徒が安全に活動ができるよう共通認識にて運営していく。	A	生徒指導部を中心に積極的に取り組んだ。	今後も生徒指導部の方針を教員に徹底させる必要がある。
		家庭との連携状況	計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活が送れるよう支援していく。	A	担任の教員はそれぞれに努力したが、バックアップ体制の構築が課題である。	保護者の来校回数の増加による信頼関係の構築、外部専門家との協力が求められる。
	進路指導	キャリア教育について	キャリア教育（進路指導）に取り組む体制が整備され、生徒の自立に向けた取組みが実施されている。	A	保護者からも定期的な進路情報の提供には評価を頂いた。	外部講師を招いたり、外部の研修に参加しやすい体制を作る。
	保護指導	健康の保持推進について	心身ともに健康であるための支援（定期連絡やスクーリング時における保護者へ支援）	A	保護者の健康で働けることについて。またスクーリングに参加する生徒に対し保護者から聞き取り調査を行っている。担任も生徒進路時に確認している。	保護者より十分な保護者からの積極的な情報提供を図る必要がある。
その他	教職員研修	成長向上	教職員間で職務内（生徒対応など）を把握し、意見交換などを行う機会を確保している。	B	職員会議を2週間に1回設定し、情報交換を行っている。	引き続き情報共有の確保が必要である。
		研修の充実（校内・校外）	教職員が計画的に校内研修に参加できる仕組みや体制が整備されている。	B	グループ全体の研修は行われたが、ルネサンス大阪高等学校独自の研修が少なかったことは否めない。	外部の研修に参加しやすい体制の構築が必要不可欠である。また外部の研修を拒否することも考える必要がある。
		他校及び関係機関との連携	姉妹校との連携を深め、連携先校としての在り方などの情報交換を行い、学校全体としての向上を高める。	B	遠征型スクーリングの姉妹校と通字型スクーリングの本校では抱える課題が違うため、連携は困難が伴う。	グループ内の合同研修を継続し、意見交換を行う。
	地域との連携	地域への貢献	地域行事への参加、地場産品の販売。	C	夢心のため地域のつながりが強いという面を踏まえているが、近隣の専門学校への体験学習を行った。	地域のボランティア活動への参加や、地域を知る活動を検討し入れる必要がある。

校長 教頭 事務長
